

大学等名	愛知学泉短期大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AIプログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

数理・データサイエンス・AI リテラシーの単位2単位を取得すること

必要最低科目数・単位数

1

科目

2

単位

履修必須の有無

令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
数理・データサイエンス・AIリテラシー	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
数理・データサイエンス・AIリテラシー	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
数理・データサイエンス・AIリテラシー	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
数理・データサイエンス・AIリテラシー	2	○	○	○					

⑧ 「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理・データサイエンス・AIリテラシー	2	○	○	○	○						

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄り添っているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスやAIが社会にもたらした変化、Society5.0が目指す社会について具体例について理解する(1回目) ・データ・AI利活用の現場と最新動向について理解する(2回目) AIを活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー・商品のレコメンデーション、ジオマーケティング、アイトラッキング)など社会で起きている変化ビッグデータ、IoT、AI、生成AIを知る。
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の仕組みについて理解する(3回目)(強化学習、深層学習、画像認識、ディープラーニング、) ・ChatGPTを始め生成AIの現状を理解し、これら利活用におけるプロンプトエンジニアリングの手法の基礎を理解する AI最新技術の活用例(強化学習、転移学習、生成AI)を知る。
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> 数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」を知る。(3回目) (データの種類、データの所有者、構造化データと非構造化データ) ・データ・AI利活用のための技術を学ぶ。(データの種類、データの所有者、著作権) ・データ・AI利活用のための技術について(5回目) データ解析理解する(予測・グルーピング・シミュレーション)、データ可視化の例 社会で活用されているデータ調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータを知る。
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを知る。(4回目) ・データ・AIの活用領域について理解する(4回目) (医療・介護・教育・災害対策・日常生活にて) ・データ・AI利活用の現場と最新動向について理解する。(5回目) (例示: データサイエンスのサイクル、農業や食品業界、サービス業におけるデータ・AI活用事例) データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)を知る。
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> 数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものである ・流通・製造・金融領域の知見とAI・データサイエンスについて使われ方を理解する。(6回目) ・企業のAI・データサイエンス導入事例や成功事例から学ぶ。(5回目) データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化 等技術の概要を知る。
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・サービス・インフラの知見とAI・データサイエンスについて理解する。(7回目) (企業のAI・データサイエンス導入事例や成功事例から学ぶ) ・公共・ヘルスケアの知見とAI・データサイエンスについて理解する。(8回目) (企業のAI・データサイエンス導入事例や成功事例から学ぶ) データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データかいせきと推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案) どのような価値が生まれているかを知る。
(4) 活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 <ul style="list-style-type: none"> 数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮することが重要である。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要である(9回目) ・ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則について理解する(9回目) (企業の個人情報流出事例を学び、倫理的問題について問う) 倫理的・法的・社会的課題(ELSI) データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護を留意する。
	3-2 <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項について理解する(10回目) (企業の個人情報流出事例を学び、倫理的問題について問う) 情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)を留意する。
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1 <ul style="list-style-type: none"> データの種類、データの分布、データの代表値、データのばらつき、分割表とクロス集計表、データ分析上の注意する。 ・統計処理に必要なエクセルの活用法を理解する。(11回目) ・グラフを見て、何を表わしているのかイメージを読み取る。(11回目) 散布図と相関係数、相関と因果、母集団と標本抽出、統計情報の正しく理解する。(12回目) ・相関と因果について理解する。(12回目) エクセルを使った相関関係の見方と、回帰分析を理解する。(13回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値を読み解く力を養う。
	2-2 <ul style="list-style-type: none"> データ表現・データの図表表現、データの比較を説明する。 ・データから図表を作成できる。(12回目) ・不適切なグラフ表現・優れた可視化事例 (12回目) ・2群間の平均値の比較方法(t-検定)を理解する。(13回目) データ解析ツール、表形式のデータ、データの集計・並び替え・ランキングを説明する。 ・データからわかりやすい図表を作成し、説明できる。(14回目) 相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーション)を養う。

	2-3 ビックデータ、実測データをもとに、解析をする。(15回目) ・ビックデータ、実測データを使って、図表を作成し、説明する。 データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)を扱う力を養う。
--	---

① プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化について説明できる。
2. 数理・データ・AI の活用事例について説明できる。
3. 数理・データ・AI の活用における留意事項・倫理的配慮について説明できる。
4. データが持つ意味を理解し、適切に処理・分析を行って、社会の様々な問題に対して、課題を発見し、この解決につなげることができる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 11人 女性 478人 (合計 489人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
食物栄養学科	88	70	140	38	38											38	27%
幼児教育学科	123	120	240	48	47											48	20%
生活デザイン総合学科	278	130	260	119	115											119	46%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	489	320	640	205	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	205	32%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
-
- (責任者名) (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
-

- ⑥ 体制の目的
-

- ⑦ 具体的な構成員
- | | | |
|-------------|--------------|--------|
| 学長 | カリキュラム委員会委員長 | 安藤正人 |
| 副学長 | | 長谷川えり子 |
| 教務委員長 | | 山本淳子 |
| 食物栄養学科長 | | 横田 正 |
| 幼児教育学科長 | | 伊藤照美 |
| 生活デザイン総合学科長 | | 木村典子 |
| 事務局次長 | | 森脇修二 |
| 事務長 | | 三浦直修 |
| 事務次長 | | 柳 弥生 |

--

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	32%	令和7年度予定	50%	令和8年度予定	80%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	640

具体的な計画

目標を達成するために令和5年度からまずは各学科で順次進めてきた。は生活デザイン総合学科で数理データサイエンス・AIに関する教育を本学の基幹科目となる「無限の可能性開発講座ⅠⅡ」で導入し、食物栄養学科、幼児教育学科では「情報リテラシー」を必修科目としてきた。令和6年度から全学的に取り組む数理・データサイエンス・AIリテラシーが履修できるように体制を整えた。オンデマンド講義・演習パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む体制を整えた。オンデマンド教材を充実させ学生は進度に応じ振り返り学習ができるようにした。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

全学科で共通の教育コンテンツを作成しプログラムの基礎となる学修内容を全学生がオンデマンド教材を活用し全学的な履修支援をしている。繰り返し動画の視聴、教科書の活用ができるようにしている。社会で起きている変化、データ・AIの利活用の最新動向、活用事例、活用にあたっての留意事項はオンデマンド教材を使って学修を進める体制を作った。データ・実課題を用いた演習については対面式の授業で、少人数(多くて40名程度)のクラスとして、主担当教員、サポート教員の体制で演習ができるように体制を整えた、全学生のパソコンを必携化して、自身の時間を有効活用して、学修ができるようにした。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

全学科で必修科目としている。
 入学後のガイダンス、SNSなどで学生にプログラムの受講する意義を周知している。
 学修が進めやすいようにオンデマンド教材を活用している。
 GoogleClassroomを活用して学生が情報を受け取りやすい体制を工夫している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

入学後のガイダンスを通じ科目の詳細をGoogleClassroomに提示している。オンデマンド教材を視聴できる体制にしている。
対面型授業についても動画を作成し、復習しやすい体制を整えた。
多くの学生が科目を修得できるようセッションごとに小テストを設け、学修の理解度を確認して進めていった。
オンデマンド授業導入3回目までは教員と一緒に教材を視聴し、質問などしやすい体制を整えた。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

学生はGoogleClassroomを活用し質問したり教員は学習指導をしている。
オンデマンド授業導入3回目までは教員と一緒に教材を視聴し、質問などしやすい体制を整えた。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

愛知学泉短期大学内部質保証委員会

(責任者名) 安藤 正人

(役職名) 内部質保証委員会委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	各学科で動画の視聴回数など履修状況を把握し、セッションごとの小テストで学生の理解度を分析する。担当教員GoogleClassroomを活用し学生の進捗状況を確認できる。課題提出や回答状況をリアルタイムで確認できる。
学修成果	学修成果は小テスト、課題提出、学期末テストで把握する。途中、課題提出の内容をフィードバックする。課題提出の滞りがある場合には個別体制で学修サポートをして教育目標を達成する。オンデマンド授業である社会で起きている変化、AI・データの利活用・最新動向、技術、留意事項については各セッションごとに小テストを実施し、総まとめで知識の確認で学期末試験を実施する。データを扱い、説明するについては実データを活用し、レポート課題を課し、発表の機会を設定し、学修成果を確認する。学期の中間に実施する授業アンケート結果を分析することによって履修学生に理解度を把握できる。結果に対する問題、課題をFD委員会、学科会議で検討し改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学期の期末に実施する授業アンケート結果を分析することによって科目の理解度を把握できる。結果に対する問題、課題をFD委員会、学科会議で検討し次年度のカリキュラム内容の改善に活用している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生の授業アンケート結果を公表し次年度に履修する学生への推奨について確認できるようにしている。GoogleClassroomの科目ページに学生からの感想や意見を提示し情報共有している。

<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本教育プログラムである「数理・データサイエンス・AIリテラシー」は令和6年度から全学必修として履修者数、履修率の向上にむけて推進している。 また教員はAIを活用した授業に積極的に取り組むことを促し情報教育委員会はそのための講習会、勉強会を開催している。</p>
<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>卒業生のうち令和7年3月に卒業した生活デザイン総合学科の学生は必修科目として学修した。 令和7年8月に実施する卒業生の就業先企業アンケートに情報リテラシーの活用状況を設問し企業の評価を受ける予定である。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>学識経験者、教育連携校の高等学校長で組織する外部評価委員会において本学の情報リテラシー教育について評価をいただくこととしている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、社会での実例をもとにAIなどの活用のされ方、AI関連の事業を立ち上げ活躍している実業家へのインタビュー動画を「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を工夫している。授業ごとの振り返りシートで内容を確認している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>オンデマンド形式と対面形式の授業を組み合わせることで、理論と実践の両面をバランスよく学ぶことができる授業構成となっている。オンデマンド形式では、学生が自分のペースで繰り返し学習できるような仕組みを整備している。一方、対面授業ではアプリケーションの可視化ツールやデータ分析ツールを活用し、学生が理論を具体的に理解しやすいよう工夫している。加えて、Google Classroomを活用した課題の提出やフィードバックを通じて、学生の理解度を細かく把握し、授業内容の改善にもつなげている。</p>

2024年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
3823001	数理・データサイエンス・AIリテラシー Mathematics-Data Science-literacy AI	オムニバス		基礎	2	必修	1前期

科目の概要

Society5.0が目指す社会において、数理・データサイエンス・AI を適切に理解しそれを利活用し、課題を解決する能力が求められています。そこで、数理・データサイエンスや AI が社会にもたらした変化や利活用事例の紹介、社会でデータ・AI を利活用するための基礎的な能力とこれによる課題解決能力をデータを用いて、グループワークを通して涵養することを目的とします。

授業は、社会におけるデータやAI の利活用のしかた、データ・AI 利活用における留意事項・倫理的配慮、データを読む・説明する・解析し扱う、その上で、社会の様々な課題解決に役立てる例示を学ぶ内容で構成します。

①「社会におけるデータ・AI の利活用」では、データ・AI が社会にもたらした変化や活用事例について理解し、グループワークで利活用を体験します。

②「データ・AI 利活用における留意事項・倫理的配慮」では、データ・AI 利活用における自らの事例の紹介およびデジタル社会におけるリスクについてグループディスカッションを通して考えていきます。

③「データを読む・説明する・解析し扱う」では、身近なデータを用いたコンピュータ演習を通してデータを適切に読み解き分析する能力、すなわちデータを数理解析し、利活用し、課題解決に結ぶ力を身につけます。

このように、数理・データサイエンス・AI を利活用できる基礎的・汎用的なリテラシー能力を涵養する学修によって、蓄積したデータを基にAI を利活用して課題解決能力を身に付けることができます。このような本科目による学修活動は、本学の教育目標の一つである「Pisa型学力」（知識・技能の獲得力と活用力を高め、課題解決に向けた3階建ての統合した学力）の育成に繋がっています。この授業はディプロマポリシーの②と④に相当するこれに付けるために行う。

学修内容	到達目標
① 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化について理解する。 ② 数理・データ・AI の活用事例について理解する。 ③ 数理・データ・AI の活用における留意事項・倫理的配慮について理解する。 ④ データが持つ意味を理解し、適切に処理・分析を行って、社会の様々な問題に対して、課題を発見し、この解決に結ぶこ戸を理解する。	① 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化について説明できる。DP ①②④ ② 数理・データ・AI の活用事例について説明できる。DP ①②④ ③ 数理・データ・AI の活用における留意事項・倫理的配慮について説明できる。DP ①②④ ④ データが持つ意味を理解し、適切に処理・分析を行って、社会の様々な問題に対して、課題を発見し、この解決に結ぶことができる。DP ①②④ ⑤

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	自らの意志と責任で学習を進め、あらゆる事を自分事として捉えていくことができる。
	働きかけ力	困難があっても先生や友人などに積極的に質問・助言を求め、自ら解決に向けて努力できる。
	実行力	頭で考えるだけでなく、実際に行動に移しトライアンドエラーを実践できる。
考え抜く力	課題発見力	得られた情報から課題を発見し、何が原因であるのか創造力を発揮し分析を行うことができる。
	計画力	行動を起こす前にビジョンを明確にし、タスクを細分化したうえで次の行動を決められる。
	創造力	レポートは、習得した知識・スキルを活用して創造力を発揮して書くことができる。
チームで働く力	発信力	統計解析の結果について、発信力を発揮してパワーポイントを活用して発表することができる。
	傾聴力	統計手法の説明をしっかり傾聴することで処理法を理解することができる。
	柔軟性	一度決めた目標であっても、変更の必要性があれば柔軟に対処できる。
	情況把握力	
	規律性	遅刻・無断欠席など、学修意欲の欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	生活のなかに適度に休む時間を設け、バランスよく学習を進めることができる。

テキスト及び参考文献

テキスト：『はじめてのAIリテラシー』岡嶋裕史・吉田雅裕（共著）技術評論社（1680円＋税）

他科目との関連、資格との関連

大学 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」
 短大 「情報処理演習」
 生活デザイン総合学科では「ビジネス情報ユニット」「情報デザインユニット」にある科目と関連します。
 「情報処理士」「ウェブデザイン実務士」「上級秘書士(メディカル秘書)」の資格で履修しなくてはならない科目です。

学修上の助言	受講生とのルール
デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を適切に理解しそれを利活用する能力を身に付ける必要があります。パソコンを使用するため、汎用的な操作能力（エクセルによる表計算やパワーポイントの操作）が必要です。データ処理や統計解析の学修後、実際にデータを使って統計解析を行う。授業後にその成果を提出しますので、しっかりと指示に従い対応すること。様々な社会事象についてデータの収集を行うことに心掛ける。	授業の内容を理解し、積極的に取り組む姿勢がみられること。 予習・復習をする時間をとること。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	40	①	✓	情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解できているか筆記試験で評価します。 第1週から第10週の学修内容について筆記試験を実施します。	
			②	✓		
			③	✓		
			④			
			⑤			
	平常評価	小テスト	10	①	✓	毎回の講義の理解度を測るための小テストを実施します。 第1週から第10週の授業はオンデマンドで行われます。その授業の内容を動画、教科書から学び、それに基づいた小テストを毎回行います。期限を守って提出してください。期限後の提出は評価の対象とはしません。
				②	✓	
				③	✓	
				④		
				⑤		
		レポート	30	①		Society5.0が目指す社会において、数理・データサイエンス・AIの目的について理解できて活用できるかをレポートで評価します。 第11週から第15週の学修内容についてある特定データを活用して、データ化して考察するレポート課題を提示して、評価します。 授業で学修した知識・技術を活用して、データをわかりやすく活用できること、そのデータから課題を抽出し、解決策を説明できるpisa型学力について評価していきます。
				②		
				③		
				④	✓	
				⑤		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	10	①		実際にデータを使って統計解析等を行い、その成果を提出し、その結果を活用することによって授業時間内の課題解決力（pisa型学力）達成度を評価します。		
		②				
		③				
		④	✓			
		⑤				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	主体性・自らの意志と責任で学習を進め、あらゆる事を自分事として捉えていくことができる。働きかけ力・困難があっても先生や友人などに積極的に質問・助言を求め、自ら解決に向けて努力できる。実行力・頭で考えるだけでなく、実際に行動に移しトライアンドエラーを実践できる。課題発見力・得られた情報から課題を発見し、何が原因であるのか創造力を発揮し分析を行うことができる。計画力・行動を起こす前にビジョンを明確にし、タスクを細分化したうえで次の行動を決められる。創造力・レポートは、習得した知識・スキルを活用して創造力を発揮して書くことができる。発信力・統計解析の結果について、発信力を発揮してパワーポイントを活用して発表することができる。傾聴力・統計手法の説明をしっかりと傾聴することで処理法を理解することができる。柔軟性・一度決めた目標であっても、変更の必要性があれば柔軟に対処できる。規律性・遅刻・無断欠席など、学修意欲の欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。ストレスコントロール力・生活のなかに適度に休む時間を設け、バランスよく学習を進めることができる。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤			
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S (秀) 評価</p> <p>①Society5.0が目指す社会における、数理・データサイエンス・AIの目的について理解できている。</p> <p>②情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項が理解できている。</p> <p>③実際にデータを使って統計解析等を行い、その成果を提出できる。</p> <p>④その結果を活用することによって授業時間内の課題解決力（pisa型学力）達成できる。</p> <p>A (優) 評価</p> <p>上記項目①②③が理解できている。</p>	<p>B (良) 評価</p> <p>①Society5.0が目指す社会における、数理・データサイエンス・AIの目的について理解できている。</p> <p>②情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項が理解できている。</p> <p>C (可) 評価</p> <p>上記項目①が理解できている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	数理・データサイエンス・AIは、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等に深く寄与していて、それが自らの生活と密接に結びついている	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	データサイエンスやAIが社会にもたらした変化、Society5.0が目指す社会について具体例について理解する	(予習) 数理・データサイエンス・AIが関与する社会的背景を調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 傾聴力 規律性
2	数理・データサイエンス・AIは、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等に深く寄与していて、それが自らの生活と密接に結びついている	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	データ・AI利活用の現場と最新動向について理解する AIを利活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー・商品のレコメンデーション、ジオマーケティング、アイトラッキング) など	(予習) 数理・データサイエンス・AIが関与する最新動向を調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 傾聴力 規律性
3	数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で利活用されているデータ」や「データの利活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得る	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	AI最新技術の仕組みについて理解する (強化学習、深層学習、画像認識、ディープラーニング、) ChatGPTを始め生成AIの現状を理解し、これらの利活用におけるプロンプトエンジニアリングの手法の基礎を理解する (データの種類、データの所有者、構造化データと非構造化データ)	(予習) AI最新技術の仕組みについて調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 発信力 傾聴力 規律性
4	数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの利活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得る	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	データ・AIの利活用領域について理解する (例示: 医療・介護・教育・災害対策・日常生活にて)	(予習) データ・AIの利活用領域について調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
5	数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの利活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得る。	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	データ・AI利活用のための技術についてデータ解析し理解する(予測・グルーピング・シミュレーション)、データ可視化の例 データ・AI利活用の現場と最新動向について理解する (例示: データサイエンスのサイクル、農業や食品業界、サービス業におけるデータ・AI活用事例)	(予習) データ・AI利活用の現場と最新動向について調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
6	数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものである	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	流通・製造・金融領域の知見とAI・データサイエンスについて使われ方を理解する。 (例示: 企業のAI・データサイエンス導入事例や成功事例から学ぶ)	(予習) 流通・製造・金融領域の知見とAI・データサイエンスについて調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
7	数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものである	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	サービス・インフラの知見とAI・データサイエンスについて理解する。 (例示: 企業のAI・データサイエンス導入事例や成功事例から学ぶ)	(予習) サービス・インフラの知見とAI・データサイエンスについて調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
8	数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものである	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	公共・ヘルスケアの知見とAI・データサイエンスについて理解する。 (例示: 企業のAI・データサイエンス導入事例や成功事例から学ぶ)	(予習) 公共・ヘルスケアの知見とAI・データサイエンスについて調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その利活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮することが重要である。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要である。	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則について理解する。 (例示:企業の個人情報流出事例を学び、倫理的問題について問う)	(予習) ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則について調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮することが重要である。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要である。	オンデマンド講義・演習 パソコンで講義を視聴し、演習課題に取り組む。	情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項について理解する。 (例示:企業の個人情報流出事例を学び、倫理的問題について問う)	(予習) 情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項について調べておく。 (復習) 課題の小テストに取り組み提出する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11	学科別の学修到達目標に対応するデータを読む(1) データの種類、データの分布、データの代表値、データのばらつき 分割表とクロス集計表、データ分析上の注意	対面で講義・演習 パソコンで統計処理を実施する。	・実データの統計処理に必要なエクセルの活用法を理解する。 ・グラフを見て、何を表わしているのかイメージを読み取る。	(予習) 実データの統計処理に必要なエクセルの活用法を調べておく。 (復習) 講義で出された課題に取り組む。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
12	学科別の教育目標に対応するデータを読む(2) 散布図と相関係数、相関と因果 母集団と標本抽出、統計情報の正しい理解	対面で講義・演習 パソコンで相関関係と回帰分析に取り組む。	相関と因果について理解する。 エクセルを使った相関関係の見方と、回帰分析を理解する。	(予習) エクセルを使った相関関係の見方を調べておく。 (復習) 講義で出された課題に取り組む。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
13	データを説明する(1) データ表現・データの図表表現 データの比較	対面で講義・演習 パソコンでデータから図表作成、2群間の平均値比較に取り組む。	・データから図表を作成できる。 ・2群間の平均値の比較方法(t-検定)を理解できる。	(予習) データを活用した図表の作り方を調べておく。 (復習) 講義で出された課題に取り組む。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
14	データを説明する(2) 不適切なグラフ表現・優れた可視化事例 データを扱う(1) データ解析ツール、表形式のデータ データの集計・並び替え・ランキング	対面で講義・演習 パソコンでデータから図表作成に取り組む。	データからわかりやすい図表を作成し、説明できる。	(予習) 13回分の資料を読み込んでおく。Google Formsとドキュメントシートへの入力方法について確認する。 (復習) テストで不正解だったところについて調べておく。他の受講者の記述課題に目を通す。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
15	データを扱う(2) ビックデータ、実測データをもとに、解析をする。利活用への応用を考察する。	オンデマンド型式で講義・演習 ビックデータ、実測データから図表を作成する。	・ビックデータ、実測データを使って、図表を作成し、説明する。事象に対する課題解決への活用への考察できる。	(予習) データを使った図表の作り方を調べておく。 (復習) 本講義を通して感じたこと・気付いたことを言語化しまとめておく。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024（令和）年度 愛知学泉短期大学

科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」の新設に伴う学則の一部変更（案）

1. 変更の趣旨

内閣府が、「AI戦略2019」において4つの戦略目標をたて、この目標達成に向けて3つの取り組みを行っている。ここに、3つの取り組みとは、①「未来への基盤作り」②「産業社会の基盤作り」③「倫理的配慮」である。この中の①「未来への基盤作り」における「教育改革」において、デジタル社会の読み・書き・算盤である「数理・データサイエンス・AI」の基礎など必要な力を全ての国民が身に付けることが謳われている。そして、この文脈で提案されているのが、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」である。このことを受けて、愛知学泉短期大学では以下の対応を行うこととする。「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルに対応する科目を新設する。この新設する科目は、大学・短期大学の全学科1年次共通科目（必修、演習、2単位）として、令和6年度から開講する。新設する科目の授業は、原則、ブレンド型（対面とオンデマンド）により実施することとする。

この科目新設に伴い、愛知学泉短期大学の3学科カリキュラムに係る学則をそれぞれ一部変更する。

2. 変更の内容

短期大学：

食物栄養学科：基礎科目として新設

数理・データサイエンス・AIリテラシー」（2単位、演習、必修、1年前期）

幼児教育学科：教養科目として新設

数理・データサイエンス・AIリテラシー」（2単位、演習、必修、1年前期）

生活デザイン総合学科：

ベーシックアップフィールド 共通ユニットの「情報リテラシー」の科目名称の変更

数理・データサイエンス・AIリテラシー」（2単位、演習、必修、1年前期）

3. 新旧の科目数および単位数

食物栄養学科

		新		旧		備考
		必修	選択	必修	選択	
基礎科目	科目数	6	8	5	9	選択→必修、 廃止
	単位数	7	13	5	14	選択→必修、 廃止
専門科目	科目数	34	11	34	11	
	単位数	52	18	52	18	

科目数は、旧59科目から新59科目で変更無し。

単位数は、旧89単位から新90単位で1単位増。

幼児教育学科

		新		旧		備考
		必修	選択	必修	選択	
基礎科目	科目数	8	3	7	3	新設
	単位数	11	6	9	6	新設
専門科目	科目数	26	38	26	38	
	単位数	34	64	34	64	

科目数は、旧 74 科目から新 75 科目で 1 科目増。

単位数は、旧 113 単位から新 115 単位で 2 単位増

生活デザイン総合学科

		新		旧		備考
		必修	選択	必修	選択	
基礎科目	科目数	8	18	8	18	科目名称変更
	単位数	10	28	10	28	科目名称変更
専門科目	科目数	0	129	0	129	
	単位数	0	186	0	186	

科目数は、旧 155 科目から新 155 科目で変更無し。

単位数は、旧 224 単位から新 224 単位で変更無し。

4. 変更の時期

令和 6 年 4 月 1 日

愛知学泉短期大学カリキュラム委員会規程

(設置)

第1条 学長のもとに、愛知学泉短期大学カリキュラム委員会を置く。以下、「委員会」と称する。

(目的)

第2条 委員会の目的は、第3条記載の事業をPDCAサイクルを活用して全学的・組織的に推進する事によって、カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムの編成を行い、本学の学生の潜在能力を可能性の限界まで開発するとともに教育目標の達成に寄与することである。

(事業)

第3条 委員会の事業は以下のとおりとする。

- (1) カリキュラムに関する事業
- (2) 委員会の自己点検・評価に関する事業
- (3) 上記以外の第2条の目的を実現する上で必要な事業

(議題)

第4条 議題は、以下のとおりとする。

- (1) 第3条記載の事業の計画に関する事項
- (2) 第3条記載の事業の実施に関する事項
- (3) 第3条記載の事業の検証に関する事項
- (4) 第3条記載の事業の改善に関する事項
- (5) 第3条記載の事業の改廃に関する事項

(組織)

第5条 委員会は、学長が指名する委員長及び若干名の委員をもって組織する。

- 2 学長が必要があると認めるときは、委員以外の職員を会議に出席させることができる。
- 3 委員長に事故あるとき又は欠員となったときは、学長が指名する者がその職務を代行する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。なお、再任を妨げない。

- 2 委員が任期途中で交替した場合、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第7条 委員長は、委員会を招集して、議長となる。

- 2 委員長は学長の指導の下に委員会の議題の設定及び運営を行う。
- 3 委員会は、過半数の委員の出席によって成立する。
- 4 委員長は委員会終了後速やかに学長に報告する。
- 5 委員長は委員会の議事録を作成し、保管する。
- 6 委員会に副委員長を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務課が行う。

(改廃)

第9条 規程の改廃は、大学・短期大学合同管理運営者会議の議を経て、理事会で決定する。

附 則

- 1 この規程は昭和62年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成27年4月1日から改正施行する。
- 3 この規程は平成30年9月22日から改正施行する。
- 4 この規程は令和4年4月1日から改正施行する。

愛知学泉短期大学 FD 委員会規程

(設置)

第1条 学長の下に、愛知学泉短期大学 FD 委員会を置く。以下、「委員会」と称する。

(目的)

第2条 委員会の目的は、第3条記載の事業を PDCA サイクルを活用して全学的・組織的に推進することによって、教育目標を達成する上で必要な教員の教育力の維持・向上を図るとともに教育の質保証に寄与することである。

(事業)

第3条 委員会の事業は以下のとおりである。

- (1) 教員の教育研究能力向上のための教育技術の開発・向上に関する事業
- (2) 授業計画の立案、学習に関する教育方法の研究及び教育評価方法の習得に関する事業
- (3) 学習と教育に関する理論及び教育評価方法習得のための事業
- (4) 教育目標を達成するための教員組織、単位制、クラス編成、学修支援のための事業
- (5) IR 委員会との共同による教育改善・教育能力向上の研究事業
- (5) 教員間での教育能力向上及び教育改善に関する認識共有事業
- (6) 教員の教育能力向上、教育改善のための調査並びに検証及び学修成果の把握等の実施の統括とその分析を踏まえた教育等の開発、改善向上事業
- (7) 教員評価の結果改善が必要と指摘された教員に対する支援事業
- (8) ティーチング・ポートフォリオに関する研究及び研修事業
- (9) 学生による授業評価を含む教育評価に関する点検・評価活動事業
- (10) 研究所との共同による教育能力向上の研究に関する事業
- (11) その他、愛知学泉短期大学の教育目標を実現するために必要な教員の教育力を向上させるための研修及び教育に関する研究活動に関する事業
- (12) 委員会の自己点検・自己評価に関する事業
- (13) 上記以外の第2条の目的を実現する上で必要な事項に関する事業

(議題)

第4条 議題は、以下のとおりとする。

- (1) 第3条記載の事業の計画に関する事項
- (2) 第3条記載の事業の実施に関する事項
- (3) 第3条記載の事業の検証に関する事項
- (4) 第3条記載の事業の改善に関する事項
- (5) 第3条記載の事業の改廃に関する事項

(組織)

第5条 委員会は、学長が指名する委員長及び若干名の委員をもって組織する。

- 2 学長が必要があると認めるときは、委員以外の職員を会議に出席させることができる。
- 3 委員長に事故あるとき又は欠員となったときは、学長が指名する者がその職務を代行

する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。なお、再任を妨げない。

- 2 委員が任期途中で交替した場合、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員長に事故あるときは、学長が委員長の職務代行を指名する。

(運営)

第7条 委員長は、委員会を招集して、議長となる。

- 2 委員長は学長の指導の下委員会の議題の設定及び運営を行う。
- 3 委員会は、過半数の委員の出席によって成立する。
- 4 委員長は委員会終了後速やかに理事長報告する。
- 5 委員長は委員会の議事録を作成し、保管する。
- 6 委員会に副委員長を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務課において行う。

(細則)

第9条 この規程については、必要があれば、細則を設けることができる。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、大学・短期大学合同管理運営者会議の議を経て、理事会で決定する。

附 則

- 1 この規程は平成22年11月1日から施行する。
- 2 この規程は平成27年4月1日から改正施行する。
- 3 この規程は平成30年9月22日から改正施行する。
- 4 この規程は令和4年4月1日から改正施行する。

愛知学泉大学・愛知学泉短期大学情報教育委員会規程

(設置)

第1条 大学及び短期大学の両学長のもとに、愛知学泉大学・愛知学泉短期大学情報教育委員会を置く。以下、「委員会」と称する。

(目的)

第2条 委員会の目的は、第3条記載の事業をPDCAサイクルを活用して全学的・組織的に推進することによって、本学の学生の潜在能力を可能性の限界まで開発するとともに教育目標の達成に寄与することである。

(事業)

第3条 委員会の事業は以下のとおりである。

- (1) 情報教育の推進に関する事業
- (2) ICT教育の推進に関する事業
- (3) 教育のデジタル化の推進に関する事業
- (4) 学校事務のデジタル化の推進に関する事業
- (5) 教職員研修に関する事業
- (4) 研究会に関する事業
- (5) 上記以外の第2条の目的を実現する上で必要な事業

(議題)

第4条 議題は、以下のとおりとする。

- (1) 第3条記載の事業の計画に関する事項
- (2) 第3条記載の事業の実施に関する事項
- (3) 第3条記載の事業の検証に関する事項
- (4) 第3条記載の事業の改善に関する事項
- (5) 第3条記載の事業の改廃に関する事項

(組織)

第5条 委員会は、両学長が指名する委員長及び若干名の委員をもって組織する。

2 委員長に事故あるとき、又は欠員となったときは、両学長が委員長の職務代行を指名する。

3 両学長が必要があると認めるときは、委員以外の職員を会議に出席させることができる。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が任期途中で交替した場合、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第7条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

2 委員長は両学長の指導の下に委員会の議題の設定及び運営を行う。

- 3 委員会は、過半数の委員の出席によって成立する。
- 4 委員長は、委員会終了後速やかに両学長に報告する。
- 5 委員長は委員会の議事録を作成し、保管する。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教務課情報担当において行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、大学・短期大学合同管理運営者会議の議を経て、理事会で決定する。

附 則

- 1 この規程は平成22年11月1日から施行する。
- 2 この規程は平成27年4月1日から改正施行する。
- 3 この規程は令和4年4月1日から改正施行する。

愛知学泉短期大学内部質保証委員会規程

(設置)

第1条 「愛知学泉短期大学内部質保証の方針」に基づいて、学長の下に、愛知学泉短期大学内部質保証委員会を置く。以下、「委員会」と称する。

(目的)

第2条 委員会の目的は、本学の教育目標に基づいた教育の達成及び本学の学生の潜在能力の開発のために、PDCAサイクルを活用して、教育／研究・管理運営・財務等に関する自己点検・評価、その結果に基づく改善を全般的・組織的に行うことにより、内部質保証を推進することである。

(事業)

第3条 委員会の事業は以下のとおりとする。

- 1 各学科等の自己点検・評価の実施に関する事業
- 2 各学科等の自己点検・評価の検証に関する事業
- 3 短期大学の自己点検・評価の実施に関する事業
- 4 短期大学及び学部等の改善事項に対するサポート事業
- 5 短期大学の自己点検・評価書の公表に関する事業
- 6 3つのポリシーを起点とした自己点検・評価に関する事業
- 7 認証評価に関する事業
- 8 外部評価に関する事業
- 9 委員会の自己点検・評価に関する事業
- 10 上記以外、第2条の目的を実現する上で必要な内部質保証に関する事業

(議題)

第4条 議題は、以下のとおりとする。

- (1) 第3条記載の事業の計画に関する事項
- (2) 第3条記載の事業の実施に関する事項
- (3) 第3条記載の事業の検証に関する事項
- (4) 第3条記載の事業の改善に関する事項
- (5) 第3条記載の事業の改廃に関する事項

(組織)

第5条 委員会は、次の各号に定める委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学科長
- (4) 教務委員長、学生委員長、就職委員長
- (5) 短期大学の教職員の中から学長が指名した者 若干名
- (6) 事務局長、事務局次長
- (7) その他、学長が必要と認めた者

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。なお、再任を妨げない。

(運営)

第7条 委員長は学長とする。

- 2 副委員長は学長が指名する。
- 3 委員長は委員会を招集し、議長となる。

4 委員長に事故あるとき、又は欠けたときは、副委員長がその職務を代行する。

(会議)

第8条 会議には、定例会議と臨時会議を設ける。

2 定例会議については、少なくとも年4回(前期2回、後期2回)開催する。

3 臨時会議については、必要に応じて随時開催する。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、総務課において行う。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、大学・短期大学合同管理運営者会議の議を経て、理事会で決定する。

附 則

1 この規程は令和3年11月27日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、愛知学泉短期大学自己点検・自己評価委員会規程は廃止する。

3 この規程は令和4年4月1日から改正施行する。

大学等名	愛知学泉大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AIプログラム	申請年度	令和 7年度

取組概要 【到達目標】

- ①数理・データサイエンス・AIが社会にもたらした変化について説明できる。
- ②数理・データ・AIの活用事例について説明できる。
- ③数理・データ・AIの活用における留意事項・倫理的配慮について説明できる。
- ④データが持つ意味を理解し、適切に処理・分析を行って、社会の様々な問題に対して、課題を発見し、その解決につなげることができる。



【構成する授業の内容】

- ①数理・データサイエンス・AIが対象とする「実データ」を知る。
- ②社会で活用されているデータの活用領域について理解する。
- ③企業のAI・データサイエンス導入事例や成功事例から学ぶ。
- ④ELSI,個人情報、データ倫理、AI社会原則について理解する。
- ⑤ビックデータ、実測データを使って、図表を作成し、説明する。

【修了要件】

「数理・データサイエンス・AIリテラシー」を履修し2単位を修得する。

【実施体制】

学長を中心にカリキュラム委員会、FD委員会、情報教育委員会が連携し実施推進する。

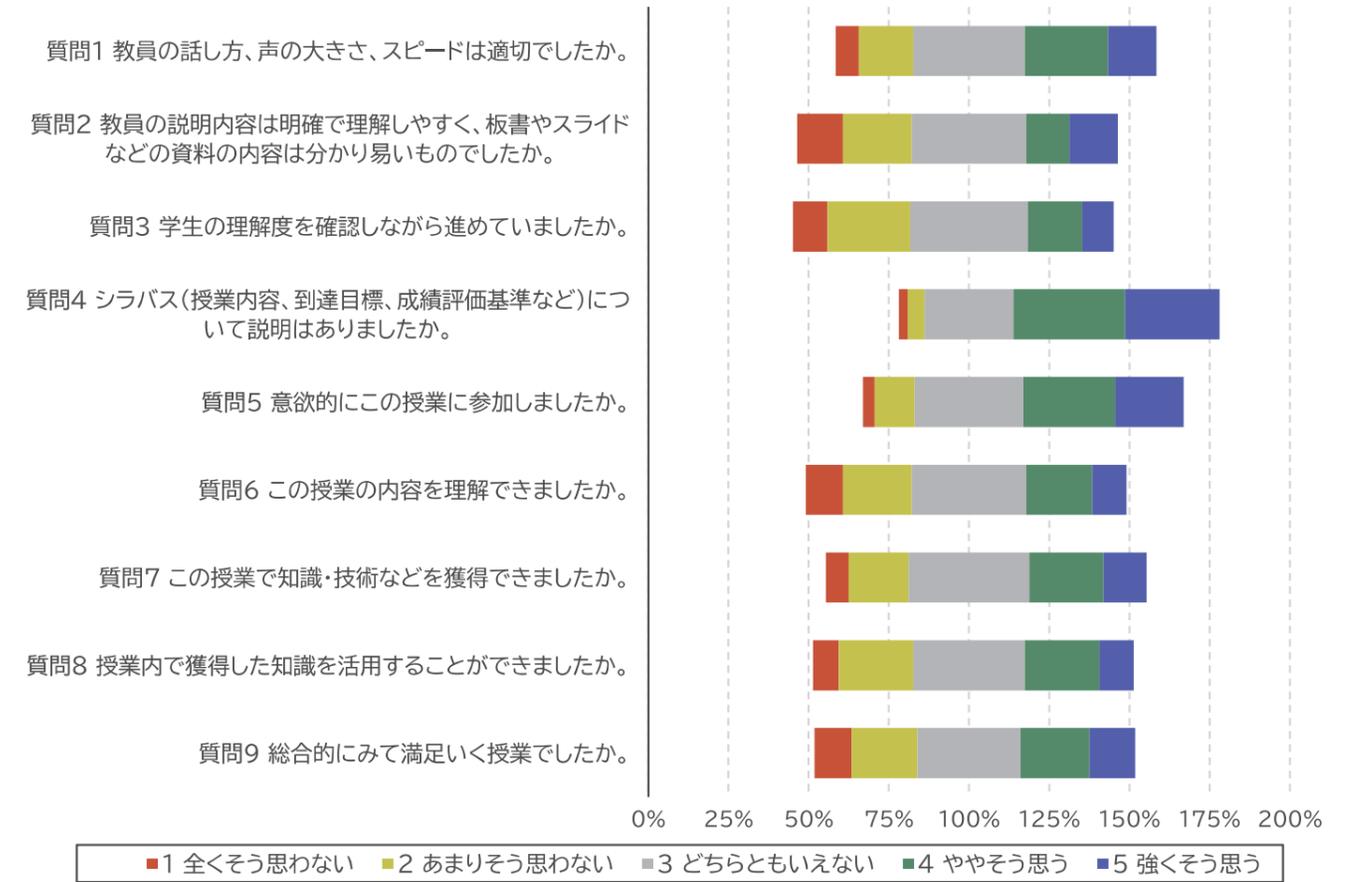
対象科目	担当教員	履修数	回答数	回答率
数理・データサイエンス・AIリテラシー	木村 典子	129	112	86.8%
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

※ 中段の[](角カッコ)内は今年度・中間の集計値。下段の()(丸カッコ)内は昨年度・期末の集計値。

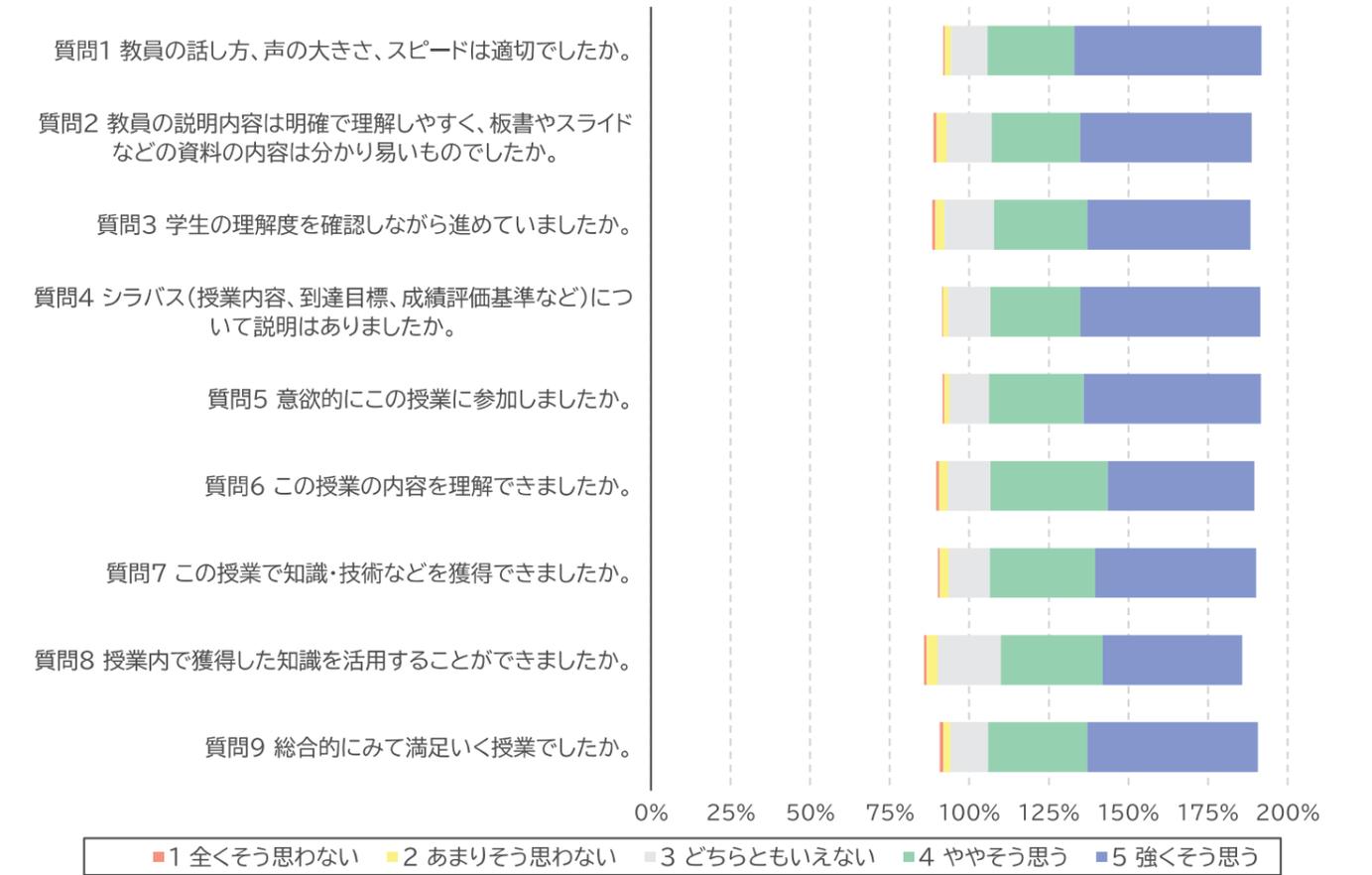
対象科目分類	対象科目数	実施数	実施率	平均履修数	平均回答数	平均回答率
生活デザイン総合学科	47	46	97.9%	46.0	33.3	72.3%
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

※ 中段の[](角カッコ)内は今年度・中間の集計値。下段の()(丸カッコ)内は昨年度・期末の集計値。

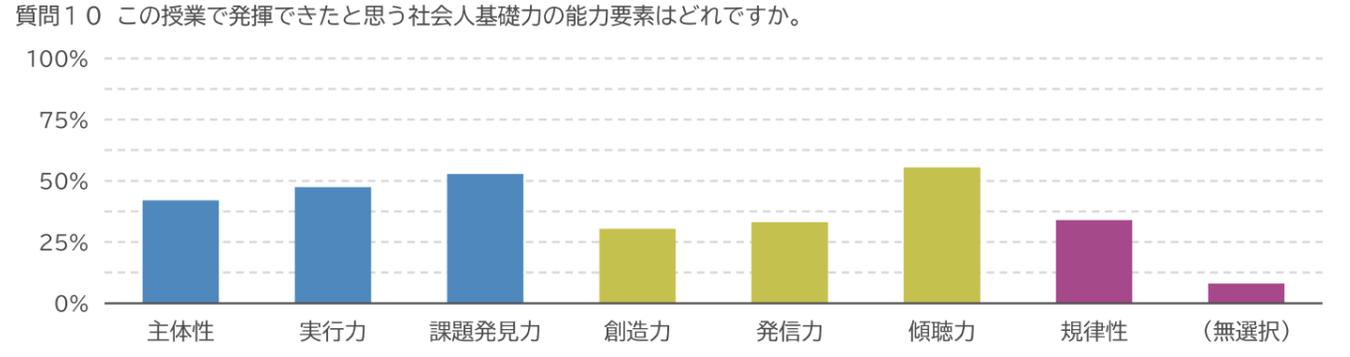
▼ 対象科目の回答状況 (単一選択のみ可能な質問) ▼



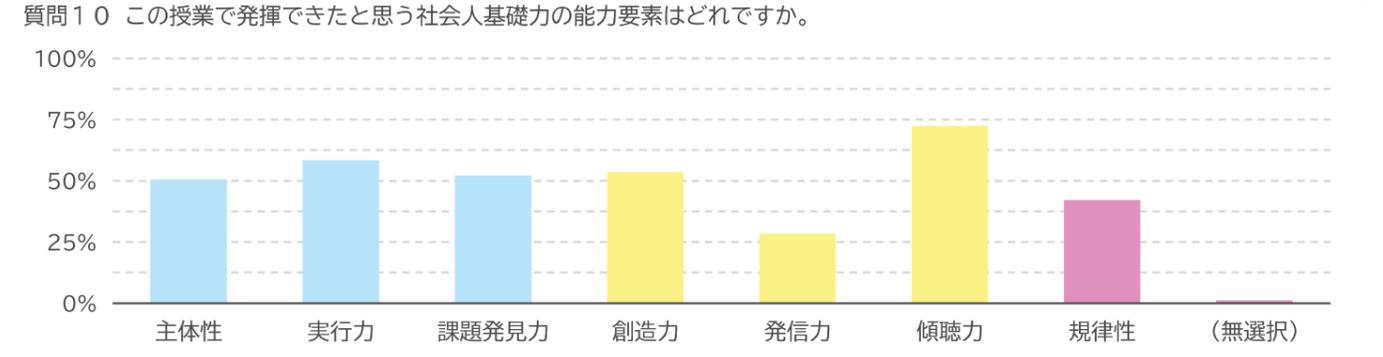
▼ 分類が同じ科目の回答状況に対する平均値 (単一選択のみ可能な質問) ▼



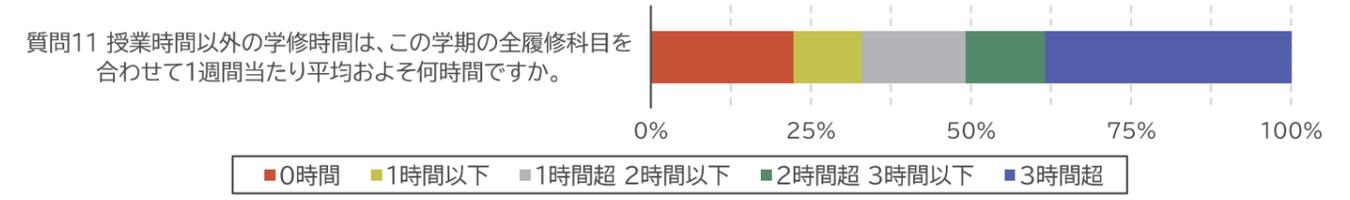
▼ 対象科目の回答状況 (複数選択可能な質問) ▼



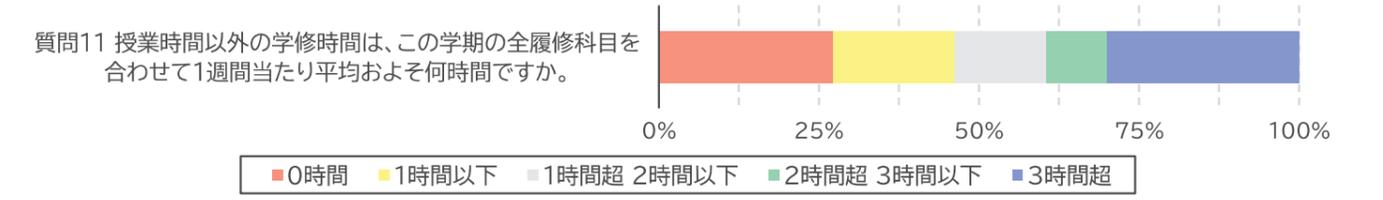
▼ 分類が同じ科目の回答状況に対する平均値 (複数選択可能な質問) ▼



▼ 対象科目の回答状況 (実数値を入力する質問) ▼



▼ 分類が同じ科目の回答状況に対する平均値 (実数値を入力する質問) ▼



対象科目	担当教員	履修数	回答数	回答率
数理・データサイエンス・AIリテラシー	木村 典子	129	112	86.8%
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

※ 中段の[](角カッコ)内は今年度・中間の集計値。下段の() (丸カッコ)内は昨年度・期末の集計値。

▼ 対象科目における質問ごとの詳細値 (単一選択のみ可能な質問)

質問	平均値	1選択率	2選択率	3選択率	4選択率	5選択率	最小値	中央値	最大値	標準偏差
質問1	3.25 ± 0.21	7.1%	17.0%	34.8%	25.9%	15.2%	1	3	5	1.13
説明の仕方	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問2	2.94 ± 0.23	14.3%	21.4%	35.7%	13.4%	15.2%	1	3	5	1.24
資料が明確	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問3	2.89 ± 0.21	10.7%	25.9%	36.6%	17.0%	9.8%	1	3	5	1.12
理解の確認	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問4	3.83 ± 0.19	2.7%	5.4%	27.7%	34.8%	29.5%	1	4	5	1.00
目標の説明	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問5	3.52 ± 0.20	3.6%	12.5%	33.9%	28.6%	21.4%	1	3.5	5	1.07
意欲的参加	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問6	2.97 ± 0.21	11.6%	21.4%	35.7%	20.5%	10.7%	1	3	5	1.15
内容理解度	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問7	3.17 ± 0.20	7.1%	18.8%	37.5%	23.2%	13.4%	1	3	5	1.11
知識等獲得	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問8	3.05 ± 0.20	8.0%	23.2%	34.8%	23.2%	10.7%	1	3	5	1.11
知識活用度	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問9	3.06 ± 0.22	11.6%	20.5%	32.1%	21.4%	14.3%	1	3	5	1.21
総合満足度	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-

▼ 対象科目における選択肢ごとの選択率 (複数選択可能な質問)

質問	主体性	実行力	課題発見力	創造力	発信力	傾聴力	規律性	(無選択)
質問10	42.0%	47.3%	52.7%	30.4%	33.0%	55.4%	33.9%	8.0%
社会人基礎力	-	-	-	-	-	-	-	-

▼ 対象科目における質問ごとの詳細値 (実数値を入力する質問)

質問	平均値	0時間	0~1時間	1~2時間	2~3時間	3時間超	最小値	中央値	最大値	標準偏差
質問11	3.53 ± 0.98	22.3%	10.7%	16.1%	12.5%	38.4%	0	2	30	5.31
全予復習時間	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-

▼ 対象科目における自由記述回答 (文章を入力する質問)

質問12 この授業の感想や要望等がありましたら、記入してください。来年度の授業改善に役立てますので、意見等をお願いします。(任意)

難しい／もっと分かりやすくしてほしい／対面授業のスピードがバラバラで何をやれば良いかわかりませんでした。／楽しく受けることができました／オンデマンドじゃなくて、授業でやってほしかった。理解するのが難しいです。／11週から対面になりましたが進むのが早く理解出来ないのに次に進んでいて大変でした。／最後の日の対面授業が全然わかりませんでした。先生が1人でできると進んでしまうので後ろの方の席の人は皆終わらないのに進んでいて大変でした。課題も難しいし、期限と比べると量も多く、Excelデータも使いにくかったです。今年から始まった内容だと聞いているので授業をする方も難しいのはわかりますが、もう少し理解出来る授業を受けられたら良かったなと思いました。／最後のパワーポイントの問題がなかなか追いつきにくい最後の問題が分からなかった／対面での授業説明が非常にわかりにくかった。／スクリーン全く見えなかったからどうにかしてほしい／数理の対面の授業がわかりにくかった。すぐ進んでしまうため理解出来なかった。教科書を購入した意味がなかったのではと感じたので、買わなくてよいとする、もしくはもっと教科書に沿った授業内容にしてほしい。・オンライン授業の動画が音量、音質のせいで視聴したくないと思うほどだった。マイクを介す、もしくは広告との音量ギャップで驚いてしまうのを防ぐためにYouTubeでなく動画ファイルでアップロードしてほしい。／11~15回目の授業で、先生の説明及び授業の進め方が悪かったので改善をお願いします。／3号館で授業を受けた際、後ろの方の席だったため前のスライドが見えませんでした。教室を分けるなどの対応が必要だと思いました。／少し難しかったですが、色々なことが知れたので勉強になりました。ありがとうございました。／対面の授業半分ぐらい何を言ってるの

※ 各質問とも、中段の[](角カッコ)内は今年度・中間の集計値で、下段の() (丸カッコ)内は昨年度・期末の集計値です。

対応する集計値がない場合は「-」で表示されます。

※ 平均値にある±値は、平均値に対する(正規分布を使用した)95%信頼区間の範囲です。

対象科目分類	対象科目数	実施数	実施率	平均履修数	平均回答数	平均回答率
生活デザイン総合学科	47	46	97.9%	46.0	33.3	72.3%
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

※ 中段の[](角カッコ)内は今年度・中間の集計値。下段の() (丸カッコ)内は昨年度・期末の集計値。

▼ 分類が同じ科目の回答状況に対する各平均値 (単一選択のみ可能な質問)

質問	平均値の平均	1選択の平均	2選択の平均	3選択の平均	4選択の平均	5選択の平均	最小の平均	中央の平均	最大の平均	平均の偏差
質問1	4.42 ± 0.12	0.5%	2.0%	11.6%	27.2%	58.8%	2.80	4.64	4.98	0.41
説明の仕方	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問2	4.31 ± 0.14	0.9%	3.3%	14.1%	27.8%	53.9%	2.63	4.49	5.00	0.48
資料が明確	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問3	4.27 ± 0.13	1.0%	2.9%	15.5%	29.3%	51.3%	2.59	4.41	4.98	0.46
理解の確認	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問4	4.39 ± 0.11	0.2%	1.6%	13.4%	28.2%	56.6%	2.76	4.67	4.96	0.37
目標の説明	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問5	4.39 ± 0.10	0.5%	1.6%	12.4%	29.8%	55.7%	2.72	4.62	4.98	0.34
意欲的参加	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問6	4.25 ± 0.14	0.9%	2.8%	13.4%	36.8%	46.2%	2.65	4.30	4.96	0.47
内容理解度	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問7	4.30 ± 0.12	0.5%	2.8%	13.0%	33.1%	50.6%	2.61	4.47	4.98	0.42
知識等獲得	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問8	4.14 ± 0.14	0.9%	3.5%	19.8%	32.1%	43.8%	2.46	4.27	4.96	0.49
知識活用度	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-
質問9	4.34 ± 0.14	1.0%	2.3%	11.9%	31.2%	53.7%	2.59	4.53	4.96	0.47
総合満足度	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-

▼ 分類が同じ科目の回答状況に対する各平均値 (複数選択可能な質問)

質問	主体性	実行力	課題発見力	創造力	発信力	傾聴力	規律性	(無選択)
質問10	50.5%	58.3%	52.1%	53.6%	28.4%	72.4%	42.1%	1.1%
社会人基礎力	-	-	-	-	-	-	-	-

▼ 分類が同じ科目の回答状況に対する各平均値 (実数値を入力する質問)

質問	平均値の平均	なしの平均	0~1の平均	1~2の平均	2~3の平均	>3の平均	最小の平均	中央の平均	最大の平均	平均の偏差
質問11	2.56 ± 0.54	27.2%	19.1%	14.2%	9.6%	29.9%	0.25	1.30	15.30	1.85
全予復習時間	--	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 各質問とも、中段の[](角カッコ)内は今年度・中間の集計値で、下段の() (丸カッコ)内は昨年度・期末の集計値です。

対応する集計値がない場合は「-」で表示されます。

※ 平均値にある±値は、平均値に対する(正規分布を使用した)95%信頼区間の範囲です。